

先週と今週（12月27日から1月7日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

先週および今週のインターバンク市場は、無担保コールO/N物は依然として調達サイドのニーズが強く、年明け後も年末に上昇したレートを引継いで始まるなど、レートは日々上昇していく展開となった。加重平均レートは、先週は▲0.02～▲0.015%前後での推移、今週は▲0.015～▲0.005%前後での推移となるなど、水準が切り上がっていった。7日の取引も、積み終盤の週末4日積みの影響を受け、地銀勢を中心に取り上がる動きが加速した。ターム物については期内物を中心に▲0.01～▲0.001%での引き合いが散見された。日銀当座預金残高は、先週は540兆円台前半での推移となった。今週は、週を通して資金不足日が多く、4日の2年債の発行、6日の10年債の発行、法人税・年金保険料揚げを受け、当座預金残高は530兆円台半ばまで減少した。

●レポ市場

先週のO/N GCIは、▲0.090～▲0.070%のレンジでの取引となった。年末越えとなる取引を挟む中、週を通して投資家の資金調達がしっかりであった。

今週のO/N GCIは、▲0.090～▲0.060%のレンジでの取引となった。週を通して投資家の資金調達がしっかりで、6日には国債買現先オペ（1/7-1/14・20,000億円）がオフアされた。

SCはカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

先週の短国市場は、年末年始の休みを控え、動意なく閑散なマーケットとなった。

今週の短国市場は、3M物の発行増額や相次ぐ入札による需給悪化懸念などから慎重姿勢が強まる中、やや軟調な推移となった。

5日に実施された3M物の入札は、小甘い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

6日に実施された6M物の入札は、やや弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

7日に実施された3M物の入札は、やや軟調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、年が明けたことで、期末に残高を落とした業態から大型発行が連日行われた結果、発行超のマーケットとなった。市場発行残高は先月末には23兆円台半ばまで減少したが、期明けの調達再開で大型発行が複数散見されたため、足元では25兆円台前半まで増加している。発行レートについては、先月の日銀金融政策決定会合にて4月以降のCP等買入オペの買入れ枠拡大措置の終了および新型コロナ金融支援オペにおける民間債務担保の取扱い終了が決定されたものの、年度内償還物や発行頻度の低い稀少銘柄に関しては、変わらず低水準で決着するなど、引き続きオペ向けの担保を確実に確保しようとする動きが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/27 (月)	28,676.46	0.060	114.40	△ 0.021	△ 0.078	5,462,700
12/28 (火)	29,069.16	0.060	114.95	△ 0.018	△ 0.081	5,457,100
12/29 (水)	28,906.88	0.055	114.85	△ 0.016	△ 0.083	5,449,100
12/30 (木)	28,791.71	0.070	115.00	△ 0.018	△ 0.079	5,430,500
12/31 (金)						
1/3 (月)						
1/4 (火)	29,301.79	0.085	115.42	△ 0.016	△ 0.076	5,411,000
1/5 (水)	29,332.16	0.095	116.20	△ 0.012	△ 0.069	5,408,100
1/6 (木)	28,487.87	0.115	116.04	△ 0.009	△ 0.076	5,347,200
1/7 (金)	28,478.56	0.130	115.89	△ 0.008	△ 0.078	5,379,400

来週（1月11日から1月14日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/10 (月)	成人の日				11月の米卸売売上高
1/11 (火)	12月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 11月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				
1/12 (水)	12月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 11月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)	5Y 25,000億円 1/13発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 1/20借入		米ページブック 12月の米財政収支 12月の米消費者物価指数
1/13 (木)	12月のマネーストック(日銀 8:50) 11月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)				12月の米生産者物価指数
1/14 (金)	12月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB3M 50,000億円 1/17発行	20Y 12,000億円 1/17発行	交付税借入 11,000億円 1/26借入	11月の米企業在庫 12月の米小売売上高 12月の米鉱工業生産・設備稼働率 1月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/10 (月)	成人の日								
1/11 (火)	2,800	▲ 10,900	▲ 8,100	国債補完 CP買入	200 ▲ 200		0	▲ 8,100	TB3M発行▲50000償還50000 TB6M発行▲34500償還34000 30Y発行▲9000
1/12 (水)	3,000	2,000	5,000				0	5,000	
1/13 (木)	2,000	▲ 37,000	▲ 35,000	社債買入		1,300	1,300	▲ 33,700	源泉税揚げ 5Y発行▲25000
1/14 (金)	2,000	3,000	5,000	国債買現先	▲ 20,600		▲ 20,600	▲ 15,600	
週間合計	9,800	▲ 42,900	▲ 33,100	—	▲ 20,600	1,300	▲ 19,300	▲ 52,400	

1/11は日銀予想、1/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積みの最終週となり、地銀業態を中心とした調達ニーズが維持されるのか、あるいは7日の4日積みの取引をピークに、ニーズが一服するのか、レート動向が注目される。レポ市場は、国債買現先オペがオファーされたこともあり、概ね横ばいでの推移を予想する。13日以降は新しい積み期の取引となり、▲0.100～▲0.080%での推移を予想する。短国市場は、14日に3M物の入札が実施予定となっている。レート水準を含め、市場動向が注目される。また、11日に実施が見込まれる短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、14日にCP等買入オペが5,000億円で実施予定となっている。市場残高が高水準で推移する中、直近の按分レートは3回連続横ばいとなっており、按分レートがどの程度で決着するのか注目される。

主要なイベントは、12日のページブック、12月の米消費者物価指数などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。